

阿 嶋 嶺

頼

山

陽

危 礁 乱 立 す 大 濤 の 間

皆 を 決 す れ ば 西 南 山 を 見 ず

鶺鴒 影 は 低 速 し 帆 影 は 没 す

天 水 に 連 なる 処 是 れ 台 湾

【作者】頼 山陽(一七八〇〜一八三二年)(安永九年〜天保三三、江戸後期の人、広島藩士で朱子学者の頼春水(しゅんすい)の長男として、大阪の江戸堀に生れる。名は襄(のぼる)、字(あざな)は子成、号は山陽。史家、広島藩士尾藤二洲の門に入り昌平黌(しょうへいこう)に学ぶ。尊皇の志厚く、豪放磊落・孝心厚く日本外史など著述詩作にも専念した。十八歳で江戸に遊学した。二十一歳京都に走り脱藩の罪により幽閉される。天保三年九月病のため没。五十三歳。

【語釈】\*阿嶋嶺：阿久根のことで鹿児島県の西海岸にあり湾口に奇巖並立する。 \*危 礁：礁はかくれ岩。波の動きで見え隠れする岩。  
\*大 濤：荒波。 大波。 \*鶺鴒 影：鶺鴒はあさきどり。 鳩属 体青黒色で尾は短くよく囀(さえず)る。 又たかやはやぶさの類ともいう。  
こころでははやぶさの飛ぶ影

【通釈】奇岩怪石が波間(なみま)に乱れ立っている。目を見張って遠く西南を眺(なが)めると、海水が渺茫(びようぼう)として山一つ見えない。ただ鳥の影が水面すれすれに旋回(せんかい)して、先ほどまで見えていた白帆(しらほ)の影もいつしか水平線の彼方に消えてしまった。天と水が一つに連なっていると恐らくあの辺りが台湾だろう。